



トップニュース：「施設安全性緊急評価」と福井鉄道 新車両導入の陰で

福井鉄道の保全整備事業。岐阜からの車両導入の明るい話題の陰に埋没しがちな話題ですが、この保全整備事業と岐阜からの車両導入は実は一体の事業で、「施設安全性緊急評価」という、国による全国の地方鉄道の安全性検査への対応です。もともと京福電鉄の二度の正面衝突事故を受けて国が検査の対象を全国の地方鉄道に広げたもので、地方鉄道の安全性を確保するというものでした。しかし、指摘事項の改修に要する費用を国が全額補助する訳ではなく、鉄道事業者・自治体にも大きな負担が及ぶので、実際にこの「施設安全性緊急評価」のために廃止された鉄道、廃止が取りざたされた、あるいは現在取りざたされている鉄道が存在します。福井鉄道では7つの鉄橋、8両の車両、他に軌道、ポイント、踏み切りなど多くの指摘を受けました。特に、福井鉄道の車両の調達は適合する中古車が出てくることは稀で、普通なら調達には莫大な費用がかかるころでした。ちょうど、岐阜の名鉄四路線が廃止となり、中部運輸局や名鉄の後押し、県や福井鉄道ほか関係者の方々の尽力もあって岐阜から車両を譲り受け各議会を通すことができました。岐阜の車両が出てこなければと思うとゾッとします。一方の難題、日野川鉄橋も幸橋仮橋の再利用で改修の目途が立ちました。(文：清水)

活動報告

- 6月25日 人と環境に優しい交通をめざす全国大会宇都宮参加
- 7月9日 県立大学公開講座参加
- 7月9日 『ふくい・ひと・まち KOOCAN』オープニング
- 7月随時 バス停バリアフリー調査
- 7月18日 県立大学行財政研究会参加
- 7月22日 月例会・理事会

今後の予定

- 7月23・24日(土・日) 交通権学会富山大会参加
- 7月26日(火) 中部路面電車S・福井市打ち合わせ
- 8月6・7日(土・日) 全国都市再生まちづくり大会参加
- 8月随時 LRT部会・MAP部会
- 8月26日(金) 月例会・理事会
- 8月28日(日) 環境パートナーシップ会議参加

定刻発車 [日本の鉄道はなぜ世界で最も正確なのか?]

ゆうじんの部屋 書籍紹介 三戸祐子 新潮文庫 590円

ISBN4-10-118341-4 C0165

平成17年5月1日発行の本である。もちろん福知山線の列車事故を予測して書かれた本ではない。従って、列車が時刻どおりに走ることや、乗客が2~3分の遅れも許さないことを、さほど否定的に書いていない。それでも、間違いなく旬の本である。

必ず翌日に届く郵便や宅配便、時刻とおりに来る列車、10分遅刻しても1日分の有給休暇をとらせる会社……。確かに、一人の遅刻が何十人の時間を奪うことは高度な分業社会ではよくある話である。資源の少ない日本がこれだけの付加価値を生産しているのは、一糸乱れぬ組織の力でもある。車で約束の場所に3分遅れて行って、制限速度を1キロもオーバーしないで来たといったらちょっと変わった人と言われる日本の社会。

全員が規則とおりに動いたら、みんなの期待とおりに動かない社会。公務員も一般会社も提出された書類に不備があっても、後でさしかえることを条件にどんどん次に進める柔軟性。多くの個人に規則違反のリスクを負わせながら最大限の効率を達成しているのが日本の社会である。そうしたところへの洞察はほとんどない。日本の歴史、集団行動の能力、運転士の腕、それを支える保線技術者やダイヤ編成者。すべてきれいごとで語られている。それでもこの本は読ませる本である。

鉄道のこと、歴史のこと、海外との文化の違い等体系的によく調べて理論的にかかれていて目からウロコの喜びを久しぶりに味あわせてくれる本である。

050625ひとと環境にやさしい交通をめざす全国大会（第1回）に参加して

報告者：高橋 八州太郎

日時：H17年6月25日（土）午前10:00～17:30

場所：宇都宮大学 工学部 アカデミーホール

宇都宮は県知事、市長ともLRT推進派であり、かなり前からLRT構想は進められておりました。しかし、福井や、岡山、高岡の各地でみられるようなLRT推進の市民団体が少ないように見受けられます。今回のこのフォーラムがその隘路を打開できる「芽」が出ることを期待されているような気がしました。

10:00～15:00 6会場で74のセッションを開催。

15:30～17:30 市民フォーラム

基調講演「街にLRTを走らせるために」 ゆたか はじめ氏

パネルディスカッション「LRT導入までの市民の役割」

コーディネーター 古池 弘隆氏（宇都宮大学 教授）

パネリスト 岡 将男（RACDA 岡山）

島 正範（RACDA 高岡）

奥備 一彦（雷都レール栃木）

18:00～21:00 懇親会

10時から3時まで6会場、12のセッションで74の研究発表がありました。私は第1会場で『公共交通の存続』のセッションで「公共交通利用促進活動と『ほじろば』のまちづくりをのりのりマップで」というタイトルでROBAの活動を報告してまいりました。私のROBAの報告はROBA.HPに載せておきますが、今年の11月の中部地区路面電車サミットのこともしっかり紹介し、また「のりのりマップ」と「協働による公共交通とまちづくりのすすめ」を3部ずつ売ることができました。これには一緒に参加した清水さんが頑張ってくれました。同じセッションでは、豊橋市役所の方、岡山電気軌道の方、和歌山大学・辻本先生、万葉線株の吉田氏、ひたち未来研究会の方々と一緒でした。なかでも、「ひたち」からは路面電車の存続がかなわず廃線となったことの悲しい報告がありました。なにせ、市民の7割以上が「日立関連企業」という特殊事情での存続運動は極めて厳しいものだと言われ、行政も無視できない状況があり、「NHKご近所の底力」では、「日立」が出る予定だったが横やりが入り、代理ご近所として「南海貴志川線」が登場したというハプニングがあったという。

午後のセッションでは、同じ会場で、新潟、横浜、堺、池袋、札幌、富山、各都市のLRT化進捗状況の報告があった。特に、札幌の発表はユニークでした。LRT化による乗換の移動疲労軽減効果を「hiro」という原単位で表現し、LRT延伸計画の妥当性を理論化している。「hiro」は「疲労」をもじって造語としたと言う説明を聞いて一同「ウ～ム」と納得。

（LRT札幌は、まちづくりの地区割を「いくら」「筋子」理論で展開しているのを知っていると妙に関心してしまう。これもリーダーの吉岡氏のキャラクターか？）

基調講演をされたゆたかはじめ氏は東大法学部を卒業後、東京で長く判事をつとめ、宇都宮家裁裁判長を勤め、定年後、沖縄に移住、学生時代からまちづくり、全国の鉄道を乗りこなすなどの経験の持ち主。今はLRTの導入を提唱中。13年前、クルマ社会の沖縄でLRTの話をする事ができなかった。しかし7年ほど前から少しずつ話をする事が出来た。近年ゆいレールという都市モノレールが出来てからは、県民、市民の鉄道を見る目が変わった。また、中心部の「国際通り」がクルマの排気ガスで「こ臭い通り」と言われるほどになったという。

シンポジウムでは、会場が一杯となり、あふれたため急遽別会場を設け、TVモニターで写す等の工夫をして参加者に不便をかけまいとの努力があった。約400名の方が参加し、メイン会場に入れたのは約200名でした。小生はメイン会場で聞くことができました。

栃木大学教授の古池先生のコーディネーターで各パネリストが市民活動を披瀝。特にRACDA高岡の島会長は、すべてRACDA岡山のまねごとであったが、オリジナルは「RACDAキャラバン」であったとの発表されたことは印象深かった。また、雷都レールの奥備氏は会の設立は2004年11月で現在50名のサポーターを擁し、今年の2月に岡山、広島という先進地を視察して活動を開始。大きなテーマは どうやって市民の心をつかむことができるか。市民活動と行政との係わりについてであるという。

各パネリストはそれぞれの自分達の活動について一応の報告をしたあと、最後に基調講演をされた「ゆたかはじめ氏」はまとめとして、・地方財界の認識が薄い、・マスコミの力を借りることが必要と力説。特にマスコミがLRTそのものを正しく理解されていないことが多いと指摘。

懇親会は駅前のホテルのイベントホールで行われた。国土交通省の方も駆けつけてきて熱く語っていました。これもRACDA岡氏の人脈やロビー活動の成果かなと思いました。

とにかく盛況でした。来賓のなかに船田議員も祝辞をされるなど工夫をした様子が伺われた。個人的にも懐かしい方々との親交も深めることができ、交流することの重要性もさることながら、これらのネットワークが構築されつつあることと、構築してきた方々への感謝の念を禁じ得ません。あとは、これらのネットワークを生かしてそれぞれの地域で華を咲かせていくことかなと思った次第です。

栃木市は行政先行型でLRT推進をしているのが羨ましいと思いましたが、一方、一番大事な市民の活動をどう展開していくのかなと少し心配しました。その点は「雷都レール」の運営者は充分理解していると思います。なかでも明るい希望があるのは、LRT推進の強烈な推進役を果たしている市議会議員がいることです。栃木版・坂川先生タイプかな？という感じの議員です。(とても気さくな方です。)

「人の振り見てわが身を直せ」ではありませんが、私達もより一層頑張っていかなばということを決意して宇都宮市を後にして福井へ帰りました。



開会の挨拶をする栃木県知事



基調講演をされる「ゆたかはじめ氏」

「(仮称)市民活動センター研究会」に参加して

内田桂嗣

<準備会のスタート>

本年3月に、福井市が市民活動の促進を目的とした活動拠点施設の整備をするにあたり、行政とは独立した自由な提言や研究をするための会を立ち上げるので協力して欲しいとメーリングリストで呼びかけがあった。分けもわからずに参加してみると……

- ・ 市民と行政が協働して市民活動を推進するにあたり、環境を整備しようとしている。
- ・ 福井市が整備する市民活動の拠点は、どんな施設が、どんな場所に、どんな機能が、必要か、要らないのか、どういう運営が良いか、などを研究する。
- ・ 17年度、1年をかけて市民のニーズを報告書にまとめる。市は予算付けもしている。という内容であった。とりあえず、準備会としてスタートした。

<研究会のスタート>

とにかく、できるだけ多くの市民に参加して欲しいので、研究会を立ち上げるにあたり、パブリシティ、市政広報、メーリングリスト、口コミ等を活用して参加を呼びかけ、ようやく15人があつまり4月15日研究会がスタートした。会長に内田が選ばれた。

【実験ブース・ふくい・ひと・まち KOOCAN】

<先進地の視察>

研究会メンバーの多くは、活動拠点といっても県民活動センターや鯖江のNPOセンター程度の知識であり、実感がわからない。そこで、全国的に進んだ活動拠点と言われている地域を5箇所選別し、手分けして視察調査を行った。京都市、大阪市、名古屋市、富山市、上越市である。それぞれ特徴があり大いに参考(勉強)になった。

『百聞は一見に如かず』だった。7月9日から17日まで、その視察の報告を兼ねて「えきまえ KOOCAN」で、実験ブース的に展示をした。また、ワークショップで色々な意見交換を行った。



【視察先の一つ 京都市市民活動総合センター】

<今 後>

9月には、これまでの研究のまとめとして報告書を作成する。この内容をもとに、さらに多くの市民や行政の意見を聴取したうえで来年3月最終の提言書として報告の予定である。今後、あと2回実験ブースでの展示、ワークショップなどを開催していく。

ROBA会員のみなさんも、どしどし意見を述べて下さい。





セミナー会場風景
県立大学経済研究棟 E206



ゲストスピーカーの河村助教授
イリノイ大シカゴ校
都市計画・公共政策学部

セミナーの内容

1. アメリカにおける交通計画の
移り変わり
2. 交通計画準備過程
3. 環境問題に対する取り組み
4. 都市交通計画
5. スマートグロウス・土地利用と
交通計画
6. ローカリズムとリージョナリズム

工藤教授のご案内で ROBA から坂川、脇本、佐藤の 3 名が受講しました。ゲストスピーカーはイリノイ大の河村助教授。「アメリカにおける交通計画」というテーマで 1800 年代後半から現在までの交通手段の移り変わりと都市交通計画の歴史やしくみなど 5 時間みっちり。最初に渡された 70 ページにおよぶ講義ノートは英語ばかりでビビりましたが、大変よく整理された講義のおかげで心配無用でした。

日本にいとアメリカは車とフリーウェー重視と映りますが、実際は 1970 年頃には大きく方向転換し、現在では都市交通予算のなんと 50% を公共交通系にまわしているそうです。オイルショック以降、道路の建設費の高騰し、混雑(遅延)をもはや新たな道路を作り続けることで解消できないと判断されたことや、大気汚染対策の強化が求められたことが背景にあるそうです。

交通計画と土地利用がリンクして計画されるのが一般的で、そこにはフリーウェー計画のノウハウが生かされているそうです。またスマートグロウスに積極的に取り組む州も増えてきたようです。20年30年という後に成果がわかる「まちづくりの効果」は諸手をあげて成功とは言えないようですが、ニューアーバニズムは住民には人気のようです。

国によって背景や制度など違いはありますが、ヨーロッパだけでなくアメリカでも車(道路)だけで都市交通はまかなえないという考えは常識となっているようです。
(報告:佐藤)



この屋根付のバス亭は民有地にありました。たぶん、バスを待つ人のためにこの敷地の所有者（住宅販売会社）が建てたと思われます。しっかり会社の宣伝広告もありました。

会社などに隣接している場所に、ROBA認定バス亭を作らせてもらうのも、おもしろいかも。
(明新校入り口 下り / 福井市新田塚1丁目)



ROBA認定バス亭です。なんと大きな屋根ではございませんか。ベンチも2個あり、福井駅前行きが1日72本(平日)もあり、福井県内屈指の便利さでございます。

作 / 漆崎 耕次

(新田塚 上り / 福井市新田塚町)

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「ROBANEWSに夏休みはないのか・・・え？」

清水(副編集長)

「電車利用生活便利グッズ製作中」

内田(発行責任者)

「NPO法人になると、とたんに案内が増えて・・・」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>